

東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文・柳たかを

肺炎から学んだこと

戦前に活動し、戦後に活動再開した東京の日本画



高熱でフラフラになり自転車でおくられる小学3年の私

団体・S社の先輩から作品をまた出してみないかと誘われた父親、父は徴兵されたが内地(神戸)での兵役のおかげか、大きな負傷もせず復員できた。無事帰って来れたものの極端な物資不足の世の中、家族4人(姉と僕は生まれてなかった)の食べ物を手に入れることが最優先で、日本画の注文なんてあるはずもなく絵描きを続けられるのか不安だらけだったらしい。

1年・2年と過ぎていくうちに、戦後ベビーブームが始まり新生児達の学用品とか若いママ達の化粧品の需要が増え、筆箱・ランドセル・化粧クリームの

凝った意匠のフタの塗装などを父の絵どころを見込んだ知り合いからアルバイトとして受注するようになり、生活が安定しだす。僕の小学3年の早春、父がS社復帰を目指して公募展に応募する300号大作の写生取材に同行した。

いつものリラックスした父とは違う緊張し集中する姿に接し、自分も少々の腹痛や風邪で学校を休むなど「意気地なし!」と叱咤するもう1人のスパルタな自我が心に育っていた。

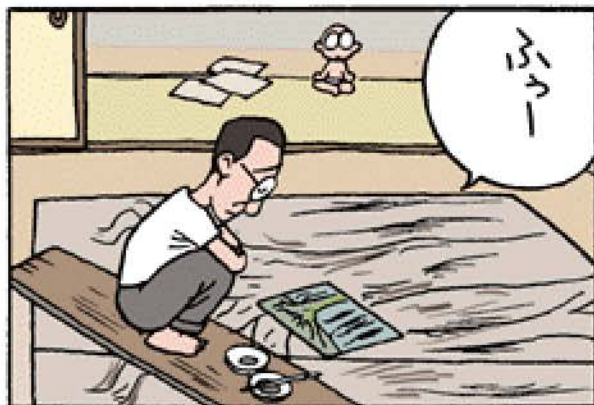
まだ朝は霞が出て冷える奈良県吉野の山中を父の後をついて歩きまわり、汗をかき普段以上の体力を使った。帰宅し一夜明けたら風邪気味で微熱があったが、「負けるもんか」と登校した。

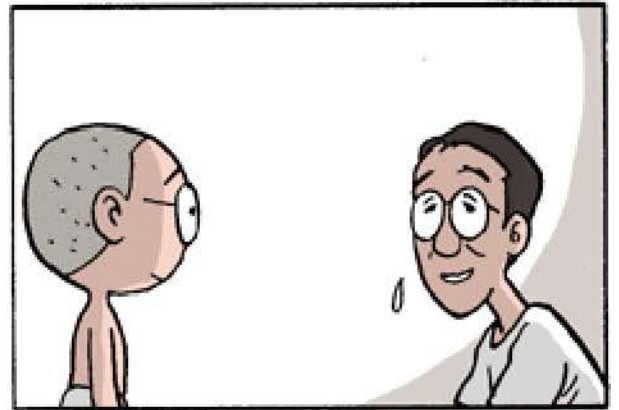
ところが授業中に黒板が揺れて見え始め、顔色を見た先生に保健室に連れて行かれまもなく自転車の後ろに乗り帰宅させられた。

そこから1学期の残りも2学期をまるまる自宅で寝て過ごす闘病生活に突入した。

高熱が続き、相当危険な状態だったが天運に恵まれ命拾いをしたのでした。

一連の経験から学んだのは願いの為には「コツコツ努力、無理や近道しようと思わない!」でした。





やぶにらみ日記 (535)
東成区の昭和



(77) 写生

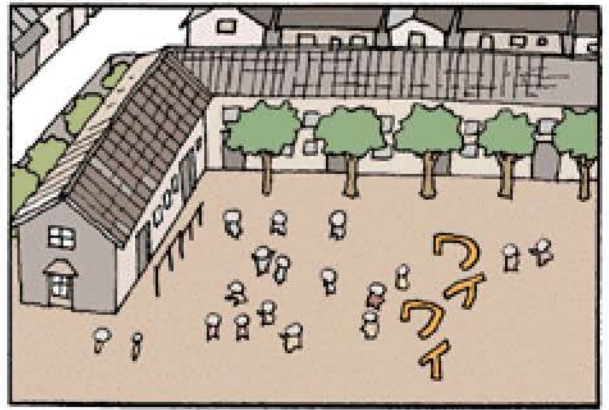


やぶにらみ日記 (536)
東成区の昭和



(78) 写生

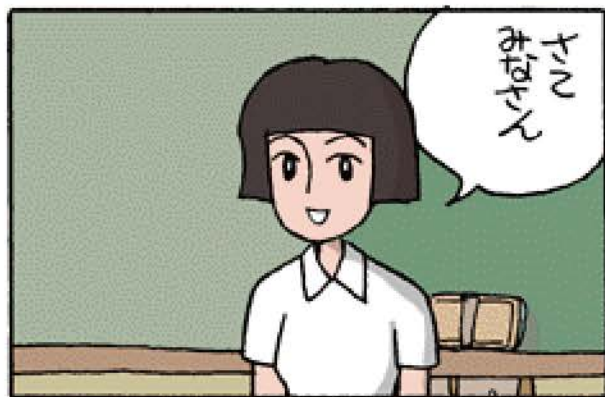
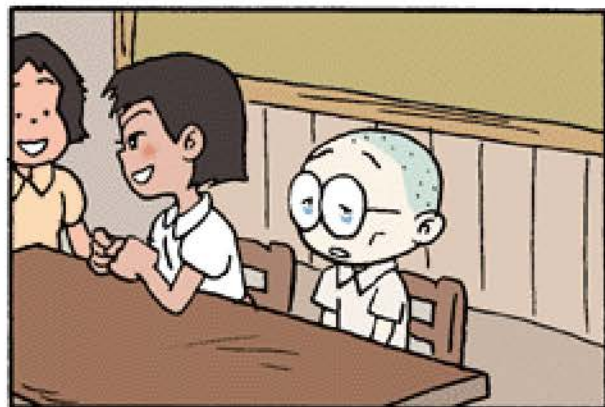




東成区の昭和



(81) 写生



東成区の昭和



(82) 写生



(83) 写生



(84) 写生

